

道徳科学習指導案

日時 平成29年9月27日(水) 5校時
場所 1B教室
生徒 北斗市立大野中学校1年B組32名
授業者

1 単元名

母はおいしい (「明日をひらく」 東京書籍)

2 単元について

人間は、過去から受け継がれてきた生命の流れの中で生きている。そこで、まず、自分が在るのは、祖父母や父母が在り、そのかけがえのない子どもとして深い愛情をもって育てられたからであることに気付かせることを大切にしたい。そのことを通して、自分の成長を願い無私の愛情をもって育ててくれた父母や祖父母に対して敬愛の念を深めることが必要である。今日家庭を取り巻く状況も様々であり、その姿は一様でないが、その家族を構成する成員相互の温かい信頼関係や愛情によって互いが深い絆で結ばれていることが大切であるということの自覚をもつことが、より充実した家庭生活を築くことにもつながる。

今回の単元は、「自分は家中の雑多なものが詰め込まれている押し入れと同じだ」という母の言葉から、作者がもう一度母というものを別の角度から見直し考えていく。表面ではなんの苦勞もなさそうに明るく、友達のような母が、実は家族の生活がうまくいくようにと、みんなの知らないところで気を配っているのだということを知って、あらためて感謝し、反省するという内容である。

中学生の時期は、自我意識が強くなり、自分の判断や意志で生きていこうとする自律への意欲が高まってくる。そのため父母や祖父母の言動やしつけに反抗的になりがちである。ちょっとした忠告や叱責が、あたかも自分のすべてを否定するかのよう思えて、反抗したい気持ちになる。しかも、かつてのような大家族の人間関係の中でしつけられ、喜怒哀楽を共にし、生活の苦勞を分かち合いながら、人間関係の機微を学んだり、家族の連帯を自覚したりする機会も少なくなっている。

自分と家族とのかかわり、家庭生活の在り方が人間としての生き方の基礎であることを十分に理解できるようにすることが大切である。その際、自分が家族の中でどのような立場にあるのか、家庭生活を営む上で、自分はどのような役割を果たせばよいのかを考え、家族の一員としての自覚をもって積極的に協力していくことが、自分の課題であることに気付かせたい。

3 単元の目標

- ・父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。

4 生徒の実態

①保護者の職業

<父>・会社員13 ・公務員2 ・自営業2 ・農業3 ・病院2 ・工業3 ・運送2 ・建設1
<母>・会社員11 ・農業4 ・病院3 ・福祉5 ・主婦6

②家庭環境

・母子家庭4 ・父子家庭2

③家族状況

<男子>・長男3 ・末っ子13 ・間2
<女子>・長女6 ・末っ子3 ・間2

5 単元の評価規準

内容項目 4主として集団や社会とのかかわりに関すること (6) 家族愛

(関連する項目 2主として他の人とのかかわりに関すること (6) 感謝、報恩)

4主として集団や社会とのかかわりに関すること	
低学年	(3) 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。
中学年	(3) 父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくる。
高学年	(5) 父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをする。

参考：小学校学習指導要領

6 単元計画（1/1時間） 本時案に同じ

7 研究主題との関連性

研究主題「仲間と学び合い、ともに高め合う生徒の育成～教科を横断した連続的な学び、思考・判断・表現力を活用するために～」を達成するには、どの教科・どの授業においても“そろえる”ということが大切である。道徳の授業では ①自分の生活を振り返る ②資料から考える ③今後の自分について考える という3項目を毎回行い、そろえることを意識している。また、家庭生活の資料であることから多くの教科に関わる単元である。家族から自分、自分から家族というお互いの立場で考えることを中心とした展開で、様々な考えを引き出していきたい。

【学びのステップ】 国語科学習指導要領解説「各学年の目標及び内容の系統表」より

	ステップ1	ステップ2	ステップ3
聞く	話す人の方に顔を向けて、最後まで聞く	自分の意見と比較しながら聞く	聞き取った内容から、自分の考えを深める
話し合う	目的に沿って、みんなで話し合う	互いの考えの共通点や相違点を整理しながら話し合う	相手の発言を大切に話し合い、自分の考えを広げる
発表する	自分の考えを、みんなに届く声で発表する	理由や事例などを挙げて、みんなに自分の考えが伝わるように発表する	互いの意見を比較・検討し、自分の考えをより深めて発表する

【思考・判断・表現力を活用する】各学年のめやす

- 1 学年～自分の考えや気持ちを根拠を明確にして文章に書くことができる。
- 2 学年～構成を工夫し、伝えたいことが効果的に伝わるように文章を書くことができる。
- 3 学年～論理の展開を工夫して説得力のある文章を書くことができる。

8 本時案

(1) 本時の目標

- ・父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。

(2) 本時の展開

課程	○主な学習活動	◇教師の主な働きかけ	□評価方法 ▲努力を評価する子どもへの声かけ
導入	①自分を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 学習課題：自分と家族互いの立場を考えよう。 </div> 家族からみた自分の立場を考える。 自分からみた家族の立場を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・両者それぞれについて考え、振り返らせる。(個人) 	□ワークシート記入 ▲家族との生活を考えさせる。教師の話聞く。
展開	②本文を読む。 おしいれのイメージを考える。 母親からみた私の存在を考える。 私からみた母親の存在を考える。 Q私がすまなく思ったのはなぜだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・母もおしいれとはどんな意味だろうか。(全体) ・本文から私と母の両者それぞれについて考えさせる。(ペア) ・母からの話、姉との会話を聞いた後の私の気持ちを考えさせる。(ペア) ・家族の一員であることを確認する。 	□ワークシート記入 ▲本文のページ数を教え考えさせる。
終末	③これからの自分を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> まとめ：家族の一員として私はどのような役割を果たせばよいだろうか。 </div> ④家族に手紙を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りに戻り、自分はどのような役割を果たすべきか考えさせる。(個人) ・家族の幸せのために私ができることを手紙に書かせる。(個人) ・後日、保護者にその手紙を配布する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 教科を横断した連続的な学び ≪家庭科≫家族と家庭生活 ≪保健体育≫心身の発達と心の健康 ≪社会≫私たちの暮らしと現代社会 ≪国語≫手紙の書き方 </div>	□ワークシート記入 ▲振り返りに戻る。 □便箋記入 ▲③の内容を用いるよう促す。

(4) 板書計画

① 振り返る
自分と家族互いの立場を考えよう。

母はおいしい

② 本文から

母

↓ ↑

私

家族

↓ ↑

自分

Q 私がすまなかったと思ったのはどうしてだろうか。

③ こうしたい
家族の一員として、私はどのような役割を果たせばよいだろうか。

④ 家族の一員として過ごすために手紙を書こう。

母はおいしい

① 振り返る
自分と家族互いの立場を考えよう。

母はおいしい

② 本文から

母

↓ ↑

私

家族

↓ ↑

自分

Q 私がすまなかったと思ったのはどうしてだろうか。

③ こうしたい
家族の一員として、私はどのような役割を果たせばよいだろうか。

④ 家族の一員として過ごすために手紙を書こう。

